

Title	<大會抄録>フランス植民地政權のベトナム村落への關與の一形態：植民型開墾(コンセション)の設定について
Author(s)	吉澤, 南
Citation	東洋史研究 (1975), 34(3): 453-453
Issue Date	1975-12-31
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/153589">http://dx.doi.org/10.14989/153589</a>
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

財」を政治の目標とした。君主獨裁權を行使する場合に、「朋黨」は尤も危険な存在であり、それを防止するために「用人」を重視した。ここから雍正帝が朋黨發生の基盤となりやすい科舉官僚の動向を警戒し、また督撫權力の擴大に寄與する思想への彈壓も行っていることに注意する必要がある。次に公權を利用しての諸々の私財蓄積の罪がある。官僚は皇帝の名代として「理財」の義務が課せられていたが、その制度の盲點を利用して私利・私欲を追求した。その場合官僚の家計を擔う家人が重要な役割を果している。年羹堯は多數の家人をかかえ私的事業を經營し暴利を圖った。ただその蓄積した財は各地に寄匿している。年羹堯蓄財の意圖は不明であるが、これが獨裁權力を脅やかすものとなった以上、斷罪の對象となったのである。

## フランス植民地政權のベトナム村落への關與の

### 一形態——植民型開墾（コンセション）設定について——

吉澤 南

#### 一、目次

- (1) フランス植民地政權とベトナム村落との關係の把握について
- (2) 開墾申請者——小集團開墾政策の意味
- (3) 開墾地
- (4) 植民地政權——《恩人》——入植戶の關係
- (5) 永久開墾における土地分配規定——「公土」導入の意味

1、史料——Backy Bao-Ho, Quoc-Ngu Cong Bao 1936~41（北圻保護『國語公報』）中の、一九三六年三月二〇日付の四の文章。①移民によるコンセション開墾の規則をもうける決定。②移民による期限つき開墾地にたいする郷約の様式。③保證書。④移民のためにコンセションを分給する規則に關する通達。

三、報告要旨——新田の開墾＝植民型開墾（コンセション）設定は、植民地政權による既存の村落共同體的諸關係の否定ではなく、その再編維持をめざしていた。小集團開墾に政策の力點があつたこと（時には分村の形態をとる）、開墾申請者（恩人）と入植戶との關係（郷約によつて律せられる）は、上からの擬似的な村落共同體規制の性格をもつていたこと、十五年間の開墾期をすぎ土地所有權が確立する段階で「公土」（村落共地）の導入が構想されていたこと、を明らかにする。したがって、ベトナム民族解放主體（農民）は、村落共同體によつて育てられた結合力に依據して鬭争したとの評價は一面的であり、植民地政權による共同的諸關係を利用した村落再編と對決しなければならなかつたのである。

米芾 小論

杉村 邦彦

蘇軾、黃庭堅、米芾は、宋代の藝苑を代表する三人の巨匠である。このうち蘇軾と黃庭堅は、なお表向きは政界の人であつた。二人とも黨争の渦中であつて、官途は不遇であつたといへ、一時は